

平成 24 年度卒業式学長式辞（25 年 3 月 25 日）

今年の冬は例年になく厳しい寒さが続きましたが、このところの暖かさで大学の桜もほころび始め、明るい陽光のもと、今年も卒業生の皆さんが本学から巣立っていくときがめぐってきました。

本日ここに、駿河台大学第二十三回学位記・卒業証書授与式に当たり、学士課程五学部を卒業される九八五名の皆さん、修士課程三研究科、専門職学位課程一研究科を修了される三九名の皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。

また、本日は、多数のご父母の皆様にもご参列いただいています。ご出席のご父母の皆様におかれましても、ご子息様ご息女様のご卒業、誠におめでとうございます。ご父母の皆様には、本学に対するこれまでのご支援に心より感謝いたしますとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。さらに、本日は、多くのご来賓の方々にご参列をいただいております。ご多用の中ご臨席くださいましたご来賓の皆様にも、篤く御礼申し上げます。

ところで、一九九〇年代初めのバブル経済崩壊後、我が国経済は失われた二十年とされています。そして、この数年は、リーマン・ショック、東日本大震災の発生、ヨーロッパ諸国の財政危機の影響で、我が国は経済も社会も、重苦しい沈滞の雰囲気におおわれ、とくに、東日本大震災の発生は卒業される皆さんを始め私たちに、将来に対する漠然とした不安感を投げかけてきました。今ようやく経済の回復傾向が見られ、社会全体に活気が戻りつつあるように思います。皆さんも、自分の目の前が少し開けた感じがしているのではないのでしょうか。

さらに、現在の我が国は、太平洋戦争後に築き上げてきた、様々な社会的仕組みの再構築を迫られ、社会の大きな変動を感じさせる時代に入っています。TPPの問題に見られるように、それから身を遠ざけているだけでは、問題は何も解決できません。日本経済が再び活性化して、グローバル社会の中で元気に競争に勝ち抜いていくことが、私たちの幸せにつながることを直視する必要があります。日本がこれまでの遺産だけを糧に生きていくということは無理なことなのです。日本を改革して、我が国を再び希望に満ちた明るい国にしていく役割は、皆さん達若い人達に期待されています。

現代は、一つの国が他の国から切り離されて、その中だけで安穏な生活ができるということはありません。私たち個々の人の生活も世界の動きから離れていられるわけではありません。これがボーダレスのグローバル社会というものです。グローバル社会に生きていく私たちは、常に世界の動き、社会の動きに目を配って、自分がそれにどう対応して生きていくかを考えていく必要があります。世界のどこかで生じた事柄が自分の生活に影響を及ぼさないと限りません。私たちは、定めなく流れ動くグローバル社会の中に生きているということを自覚する必要があります。

本学を卒業される皆さんは、今、自分の将来の夢に向かって進んでいこうという前向きな希望と、社会に出ることに対する漠然とした不安との両方を感じていることと思います。皆さんの将来は、大きな可能性に満ちています。一〇年、二〇年先の皆さんがどうなっているかを決めるのは、これからの皆さんの努力次第です。人は皆自分の将来に不安を感じるからこそ、その不安を克服しようとして努力するのです。

私は、皆さんに大学を出たこれからも学ぶ心を大切にしてほしいと思います。皆さんの努力の出発点は学ぶ心です。パナソニックの創業者である松下幸之助は、「人は教わらず、また学ばずして何一つとして考えられるものではない。教わり、学んでのちはじめて自分の考えが出るものである。」そして、「学ぶ心が旺盛な人ほど、新しい考えを作り出し、独創性を発揮する人である。」と言っています。これまでは大学の先生方が皆さんを教え導いてくれましたが、これからは社会の先輩達が教え導いてくれることになります。しかし、社会では必ずしも良い先生に恵まれるとは限りません。松下幸之助は、更に、「学ぶ心さえあれば、宇宙の万物は皆先生となる、物言わぬ木石から夜空の星屑、また先輩の厳しい叱責、後輩の純粋なアドバイスなど、一つとして先生にならないものはない。どんなことから、どんな人からも、謙虚に、素直に学びたい。」と述べています。自分の周囲の様々なことから、自ら学び取る気持ちが大切なのだといえます。

これから社会に巣立っていく皆さんは、自分に与えられた仕事を大切に、そして、自分を大切に、それぞれ自分の力を高めていく努力をすることが、最終的に自分の将来の夢を実現してくれることになるのだ、ということをお忘れないうちに、ほしいと思います。

本学の教育は、皆さんが自らの将来を切り開き、自ら将来を築き上げることのできる基礎的な力を育成することを目指してきました。本学での学びを基盤として、自分の夢を実現するために、大きく羽ばたいて下さい。どうか明るく前向きな気持ちを常に忘れずに、これから社会で出会う多くの人達と、新たな心の絆をはぐくみながら、精一杯自分らしい人生を生きて下さい。

また、皆さんには、先生方は、いつまでも卒業された皆さんのことを気にかけているということをお忘れないうちに、ほしいと思います。先生方に時折便りをしてください。皆さんが思う以上に、先生方は皆さんのことをよく覚えています。また、何か相談したいことができたら、遠慮なく先生方に相談をしてみてください。きっと皆さんが自分の問題に対処するきっかけを提供してくれることと思います。

最後に改めて、ご卒業のお祝いを申し上げますと共に、皆さんの益々のご健勝とご活躍を心よりお祈りしまして、式辞に代えさせていただきます。

平成二十五年三月二十五日
駿河台大学 学長
川村 正幸